成蹊学園

SEIKEI

vol.66
SEIKEI GAKUEN 広報 2007 Summer

Contents

2 成蹊学園環境委員会から
5 桃李の人々(若林 正俊)
8 大学の近況
10 中学・高等学校の近況
12 小学校の近況
14 2006年度決算および事業報告
17 学園トピックス
18 全学部統一入試／2008年度入学試験日程
19 成蹊教育のいま
20 学園史料を読む

学生たちが主体となって 身近なところから 環境活動を盛り上げてほしい

環境大臣・参議院議員
若林 正俊

インタビュー 桃李の人々

責任ある、環境に配慮した行動を

社会的責任と教育を融合させて「環境保全」に取り組む

Series 学園史料を読む。 蹊。

成蹊大学学生募集ポスターと第一回卒業証書

施設面での困難などにより、この時点での工学部設置は断念せざるを得ませんでした。ただし理系のコースとしては、二年間の一般教養課程の修了者で希望する学生が、他大学の医歯学部を改めて受験出来るようなカリキュラムを組んで、これを医歯学進学課程としました。

成蹊大学の初年度入学者は、二年生合わせて三八二名で、この時二年次に入学した学生が一九五〇年に三年次に入学した学生が一九五二年の第一回卒業生となりました。ここに掲載の学生募集ポスターは一九五一年のもので、初期の頃はこのとおりの学生定員を満たすには苦労もあったようですが、この状況はまもなく好転し、大学の評価は次第に高まっていきました。一九六二年には念願の工学部設置が実現して、現在の総合大学への第一歩となりました。

(成蹊学園史料館　若林美佐知)

(上)1951年に掲示された成蹊大学学生募集ポスター
(右)1952年、第1回卒業生に授与された卒業証書

100th ANNIVERSARY 1912-2012
成蹊学園広報
2007年7月10日 発行／学校法人 成蹊学園総務部広報課　東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話(0422)37-3517
URL http://www.seikei.ac.jp　e-mail koho@jim.seikei.ac.jp

社会的責任と教育を融合させて「環境保全」に取り組む

「成蹊学園環境委員会」

成蹊学園は、2006年4月より幅広い領域にわたる環境問題への取り組みを進めるため、学園環境委員会を設置しました。

責任ある、環境に配慮した行動を

成蹊学園 理事長
岸 曉 Satoru Kishi

世界は大きく変動し、人類はさまざまな問題を抱えながら発展を遂げています。その大きな課題の一つが環境問題です。教育研究機関は、地球環境保全を理解し、直面している環境問題の重要性を啓発しなければなりません。これからの世界を担う児童、生徒、学生には環境保全に対する意識の向上と課題解決の力を養う教育が必要です。また、研究者は専門分野との関連において、環境問題の根幹を明らかにし、解決策を模索しなければなりません。

成蹊学園は、その名の由来である「桃李不言下自成蹊」のもと、一貫して一人ひとりの個性を大切に育ててきました。「本物にふれる」実践教育を重視してきました。学園の所属する児童、生徒、学生には、この個性尊重教育と実践教育に環境問題を融合させ、環境教育をあらゆる側面から学ばせることが重要であると考え指導します。さらに、環境問題を解決できる学生および研究者の育成に努め、その研究支援を行います。

こうした基本理念に基づき、社会の一員として責任ある環境に配慮した行動を着実に実行します。

基本方針

1 地球環境の保全と維持を課題とする教育研究の充実を図り、環境問題に貢献する人材育成および環境分野の研究推進に努めます。

2 環境に関連する教育研究の発信、武蔵野地域をはじめとする近隣地域の理解、あらゆる人々に対する教育研究の公開、社会貢献を図る諸活動を積極的に行います。

3 みどり豊かなキャンパスの充実と地球・地域環境に配慮したキャンパスづくりを推進し、省エネルギーと省資源、資源の再利用化と廃棄物の減量化、グリーン購入の推進とみどりの保全に努めます。そのための環境目的・目標を具体的に設定し、計量化を図り、定期的に見直します。これらの環境マネジメントシステムの継続的な改善を通じて、環境汚染の防止に努めます。

4 学園内の教育研究をはじめとするすべての活動において、環境関連の法規制および学内規定などを遵守します。

成蹊学園は、この環境方針を文書化し、あらゆる人々に向けて開示します。また、児童、生徒、学生、教職員および保護者、関連業者などのすべての学園関係者にこの取り組みを周知するとともに、理解と協力を求めます。

学園の取り組み

組織活動
- 二〇〇七年度より環境マネジメントシステム（以後EMS）導入準備を開始、EMSの国際規格ISO14001認証取得をめざし二〇〇六年度より内部環境監査員（三十五名）を養成。

省エネ活動
- 二〇〇六年六月～九月にクールビズを実施し、前年同月比で消費電力を三%削減。十月～二〇〇七年四月にウォームビスも実施、二〇〇七年度も継続して実施。
- 今後、学園全体の電気使用量の計測管理、エネルギー消費削減を推進。

美化活動
- 二〇〇三年五月よりゴミ箱の分別を細分化するなど、ゴミの資源化を実施。（リサイクル率が二〇〇二年度の三七%から二〇〇三年度は六七%、二〇〇六年度には約八一%へと向上）
- 二〇〇七年度より学校単位のゴミ回収種別を段階的に統合し、ゴミの堆肥化などゼロ・エミッション活動を推進。
- 二〇〇五年より学園建学の日（三月二十三日）を中心に地域清掃活動開始。

エネルギー管理
- 経済産業省「エネルギー管理定期報告書（毎年提出）」、東京都「地球温暖化対策計画書（五ヵ年計画：二〇〇五年提出）」により消費エネルギーの具体的な削減計画を表明。東京都に提出した計画に対する評価は、最高評価AA（AA～C）を取得。

施設整備
- 建物新築や施設改修工事の際に高効率型照明器具とセンサー型自動照明システムを併用、基本消費電力の削減を推進。
- 空調設備に配慮し、エネルギー消費の発生を抑制。
- 環境負荷軽減やエネルギー効率の観点から建築資材・機器を選定・採用。新規に購入する机などの備品はグリーン商品を優先的に購入。

各学校の活動報告 ～環境に配慮した諸活動・今後の目標～

小学校

環境保全・再生に関わる栽培活動や省エネ・省資源・再利用の取り組みを重視。環境に配慮した責任ある行動を遂行する実践力の育成に努めています。

教育活動
- 開校以来の伝統として、小学校園芸場を利用した全学年による園芸学習を実施しています。
- 今後、給食食材廃棄物の飼料としての活用、落葉・飼育小動物の糞・馬糞の肥料化を促進します。

美化活動
- 児童の自治活動組織「学校桃の会」で年間を通して小動物の飼育や花壇の世話など環境整備や環境キャンペーン活動を実施しています。

キャンパス環境
- 小学校施設再開発工事に先立ち、松林に池を新設。再開発工事期間中の生き物たちへの配慮と同時に、子どもたちの環境保全の意識を高める教材となっています。
- 新本館の前庭にビオトープ・ガーデンを設置予定です。人工池に武蔵野台地の地下水を利用し、太陽光発電同様に子どもたちが自然の恩恵を実感する教材となることをめざしています。

栽培活動の様子

中学校・高等学校

敷地内の自然と施設を生かし、教職員と生徒全員で実践的な活動と環境保護意識醸成の教育に取り組んでいます。

教育活動
- 敷地内林園の観察と推移調査をもとに生徒ごとに植物図鑑を作成、夏の学校での自然観察会など自然の大切さを学ばせています。
- 構内の食材を使った調理実習により、自然との共生を学習します。
- 成蹊気象観測所の八十年間の観測記録により、多摩地区の環境変化の研究に貢献しています。
- 今後、全員参加による実践を通じた諸活動の徹底と拡大、地域のみならず地球環境の保護に関する生徒の意識と行動力を醸成します。
- 敷地内の一部に人がまったく手を加えない自然のままの林園を設け、森林と環境の問題に取り組みます。

美化活動
- 清掃などの環境美化の日常的活動を通じて環境保護意識を醸成しています。

施設整備
- 新校舎には資源の有効活用および健康に配慮した材料を採用。エネルギー損失に配慮した空調設備や、センサー型自動照明システム、節水型の自動水道器具を採用して省エネルギーを図ります。

中学校自然観察

大学・大学院

環境に関する全学的な意識を高めるため、成蹊大学学生環境委員会を発足。教員と学生が一体となって環境に関する知識や技術の向上に努めています。

教育活動
- 各学部の教育課程において、環境問題に関する多彩な授業科目を開設しています。

研究活動
- 物質生命理工学科プロセスシステム研究室では、環境省の支援を受けて、地球環境問題の解決に寄与するシステム構築の研究を進めています。

美化活動
- 欅祭（大学祭）では、エコトレイ（学生団体の欅祭本部が提案）の採用やゴミの分別指導など排出ゴミの削減に努めています。

施設設備
- 情報図書館建設など、二十一世紀におけるキャンパス開発では環境に配慮。屋上緑化、太陽光発電、センサー型自動照明システムなど新しい環境技術に基づく設備を備えた建造物を建造しています。

組織活動
- 環境マネジメントシステムの実際を学ぶことを目的とした内部環境監査員養成セミナーに、多くの学生の参加を促すための企画立案を実施予定しています。

欅祭 ゴミステーション

学生が主体となって、環境への思いをカタチにする

学生環境委員会「桃球（ももきゅう）」

成蹊学園がよりよい環境になるために。学生が主体となって活動する学生環境委員会はこれからの学園の環境を学生の視点から考えていきます。

桃球（ももきゅう）とは？

成蹊大学学生環境委員会は、学園に関係する方々に親しまれる委員会になりたいという意味を込めて、愛称を「桃球（ももきゅう）」とし、活動を行っています。名前の由来は、成蹊のシンボルである「桃」。つまり学園の環境を学生の視点から考えていくということを表しています。またもう一つは地球の「球」。これは学園を良くすることで地球環境を良くしていくこと、という二つの理念を意味します。

代表学生メッセージ

「誰かの」ではなく「自分の」問題として環境について考えたい

学生環境委員会副委員長　長内はる香

今のままの生活を続けて、大丈夫なのだろうか？ふとそんな不安がよぎります。環境問題に対して何か行動したい。まずは日常の大半を過ごす大学でできることはないか？そんな思いから私は桃球に入りました。

環境問題は「誰かの」ではなく「自分の」問題。いかに自分の生活と結びつけて考えられるかが大切だと思います。少しでも多くの人が環境問題を身近に感じるようになれば社会を変える力になる。そのためにメンバー一同、工夫しながらさまざまな活動を行っていきたいと思います。

学生環境委員会メンバー

年間活動

委員会の理念として、学生の視点から学園環境改善を促進する企画を行っています。さらに、ＳＲ（社会的責任）を積極的に果たし、経済・社会・環境が調和する持続可能な未来の創造に貢献します。

基本活動
- 学生環境活動報告の作成
- 環境内部監査取得のためのセミナー参加

教育・啓蒙活動
- 環境セミナーの実施
- ゴミ減量化運動

キャンパス内のエコ活動
- キャンパスの環境調査
- ゴミ減量化運動

環境支援活動
- 環境サークル支援
- 欅祭での環境活動支援

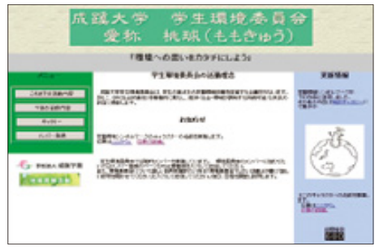
若林正俊環境大臣を表敬訪問しました

成蹊大学学生環境委員会のメンバー八名が、卒業生の若林正俊環境大臣を表敬訪問しました。シンボルマーク制定による普及や、割り箸をやめて自分の箸を携帯する「マイ箸」運動などこれまでの学生環境委員会の活動を報告し、今後の学生環境委員会の活動について、「自分の身近な出来事として、環境問題を意識してほしい。小さなことからこつこつと継続することが大事」という暖かな励ましと、アドバイスをいただきました。

若林正俊環境大臣を囲んで

学生環境委員会ＨＰを開設しました

学生環境委員会のＨＰを開設しました。環境委員会の活動理念や、これまでの取り組み、お知らせなど随時掲載していきますので、皆さまぜひご覧ください。



学生環境委員会HP「桃球」
http://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/momokyu/index.html

環境シンボルマークが決定しました。

多数の応募の中から
佐々木桃子さんの作品に決定！

児童、生徒、学生をはじめ多くの学園関係者に環境問題や活動を身近に感じてもらうために、学園の環境活動のシンボルマークを募集しました。児童、生徒、学生と教職員で投票を行い、最優秀賞は中学３年生（現高等学校１年生）の佐々木さんの作品に決定しました。このシンボルマークは今後、学園の環境シンボルマークとして登録され、今後の環境活動の場で利用されます。

インタビュー

桃李の人々 vol.14

卒業生ロングインタビュー

環境大臣・参議院議員

若林　正俊

Masatoshi Wakabayashi

今年６月、ドイツで開催されたサミットで、最重点テーマとして討議されたのが環境問題です。世界的な環境への意識の高まりを受けて、成蹊学園でもISO14001取得に向けた取り組みがスタートしています。日本の環境政策のリーダーである若林正俊環境大臣に、成蹊学園の環境活動のあり方についてアドバイスをいただくとともに、若林大臣が成蹊学園で学ばれた当時の思い出を語っていただきました。

学生たちが主体となって身近なところから環境活動を盛り上げてほしい

今でも欅並木を歩くと心が落ち着く

―長野県のご出身で、中学校から成蹊学園で学ばれていますが、入学されたきっかけは何だったのですか。

若林　私が成蹊中学校に入学した昭和二十二年当時は、戦後の混乱期で、日本人が自信を喪失し、未来に明るい展望を抱けないような空気が蔓延していました。両親はそんな社会情勢を憂慮して、私に将来への希望を持たせたい。そのためには、しっかりした教育を受けさせる必要があると考えたようです。伯父、伯母が中野に住んでいたので、そこから通える範囲で、さまざまな中学校の教育内容を調べ、成蹊中学校に決めました。

―ご両親は、成蹊学園の教育のどんな点を評価されたのでしょうか。

若林　とくに父が、落ち着いた環境のなかで、少人数制のもと、人間教育をモットーにしているところに共感したようです。

もっとも、私自身は、長野の田舎暮らしに満足していましたから、東京の学校に進学することに一抹の不安も抱いていました。そこで、小学校の担任の先生に相談したところ、とても優れた教育を行っている学校だと、強く勧めてくれました。ところが、この先生は成蹊学園を禅宗の学校だと勘違いしており、となると、卒業したら僧侶にならないといけないのではないかと、その点だけは悩みました。もちろん、その必要はまったくなかったわけですが（笑）。この先生が禅宗の学校と勘違いしていたのには、理由があります。長野・円福寺の藤本幸邦住職の講話に感銘し、影響を受けていた先生は、藤本住職が成蹊学園の出身であることを知り、禅宗の学校と思い込んでしまったのです。

―入学されて、どのような印象を持たれましたか。

若林　欅並木に、春の桜並木……。土の育む武蔵原野の林というか、自然に恵まれた環境が思い出深いですね。今でも時々学園を訪れ、あの並木道を歩くと、心が落ち着きます。

私が入学した頃は、戦後まもない時期なので、まだ本館の前には防空壕が残されていました。当然のことながら立ち入り禁止だったのですが、隠れて入ったり、防空壕の上から自転車で駆け降りたり、けっこうやんちゃをしていました（笑）。

そんな性格ですから、「凝念」の時間にはよく叱られました。「ウルフ」のニックネームで親しまれていた鈴木一郎校長が鐘を鳴らし、静かに目を閉じ、心を静めるわけですが、少し時間がたつと、どうしても、生徒同士で小突きあったり、私語を交わしたりしてしまいます。そんな時、鈴木校長は、いつも「若林」と、私一人を注意していました。「怒られ役」というか、私を怒っていれば間違

いないといった感じだったのかもしれません（笑）。

大学教員も教壇に立つ ハイレベルな授業に感動

―成蹊学園で学んでよかったと思われることは何ですか。

若林　数多くの素晴らしい先生方にめぐり会えたことです。先生と生徒の距離が近いところに成蹊学園の大きな魅力があります。当時は先生方も住宅難だったためか、校内にあった旧制高校寮の一角を仕切って、先生方も一緒に暮らしていました。放課後などに、よく先生の住まいに遊びに行き、いろんな話をしてもらったことが懐かしく思い出されます。

―とくに印象に残っている授業はありますか。

若林　生徒数に比して先生方の数がとても多かったので、高校の時は、英語・数学・国語の三教科は、それぞれ上級、中級、普通の三段階のクラスに分かれて授業が行われており、少人数制で、きめ細かな指導を受けることができました。ちなみに、クラス分けは成績順ではなく、自分で向いていると思うクラスを選択させる形でした。私は勉強があまり好きでなかったので、いつも普通クラスを選ぶようにしていました（笑）。

　また、旧制高校（学制改革後は大学）の先生方が、中学・高校の教壇にも立たれていたことも、成蹊学園の特徴でした。私は、別枝達夫先生に西洋史、書家の上條信山先生に漢文と書道、歌人でもある中村草田男先生に古文を教わりました。そういう著名な先生方のハイレベルな授業を受けられたことは、幸せなことでした。

バスケット部に所属 新人戦で東京都代表

―部活動は何をされていたのですか。

若林　中学、高校とバスケットボール部に所属しました。指導教官は後に校長を務められた奥住正彦先生でした。成蹊学園は、旧制高校のバスケットボール部が大変な強豪で、インターハイ優勝経験もあります。その伝統を私たちにも継承したいとの思いから、練習は旧制高校生と合同で行われていましたし、ＯＢもコーチとしてよく訪れていました。その一人が、国鉄民営化に尽力され、ＪＲ東日本の初代社長を務められた住田正二さんです。

　私が在学中に、ＯＢを含めた「オール成蹊」で全日本選手権に出場したこともあります。私も応援に行き、先輩たちのユニホームの洗濯係をしました。翌日の試合に間に合うように、一生懸命アイロンをかけて乾かしたこともいい思い出です。

　校内の合宿所で合宿もよく行われました。合宿の合間に授業に出席していたような感じのときもありました。試合直前には、授業中に窓からそっと抜け出して、練習に行ったこともあります（笑）。

―若林さんご自身の成績はどうだったのですか。

若林　かなりハードな練習を積んでいた甲斐あって、新人戦で東京都の代表になったこともあります。また、当時から学習院、成城、武蔵との対抗戦があり、その大会でも好成績を収めることができました。

　この対抗戦では恥ずかしい思い出もあります。成蹊学園では、雨天体操場のバスケットボールコートをトラスコンと呼んでいました。私はそれが一般に通用する言葉だと思い込んでおり、対抗戦で他校に行った時「トラスコンはどこにありますか」と尋ねて、きょとんとされてしまいました。後で、トラスコンとはアメリカの会社の略称で、他校では通じないことを知り、赤面しました（笑）。

故郷の農村部の人々のために 尽くしたいと政治家を志望

―政治家を志そうと思われたのはいつ頃からですか。

若林　具体的な目標になったのは、農林省に勤務した後のことですが、その兆しは早くからあったように思います。私は東京で恵まれた学園生活をおくることができましたが、それだけになおさら、長野への郷愁も強く持っていました。とくに農村部は疲弊しており、経済的にも苦しい。そんな故郷の人々のために尽くしたいという思いがあったのです。自分ではそれほど意識して話していたわけではありませんが、中学、高校時代から、そういう話をしていたようで、当時の友人からは、若林はいずれ政治家になるだろうと予測していたと言われます。

　その後、農村部の役に立つ仕事をしたいという希望はますます高まり、大学卒業後、農林省に入りました。そして、役人生活を通して、やはり世の中を幸せにするためには、いい政治であることが必要だと痛感し、政治家になろうと考えたのです。

―政治家として活動されていく上で、成蹊学園で学ばれたことが生きていると感じられることはありますか。

若林　成蹊学園の教えである「桃李不言下自成蹊」は、不言実行に通じる言葉で、それは言論の府であり、自己主張が必要

若林　正俊（わかばやし・まさとし）

1934 年生まれ。成蹊中・高校を経て、東京大学法学部私法学科卒業後、農林水産省に入省。食品流通局市場課長、経済局金融課長、構造改善局農政課長などを歴任。1983 年、衆議院議員に初当選（長野 1 区）。総務政務次官などを務める。現在、参議院議員（長野県区）で、2006 年、環境大臣に就任。著書に『農地法の解説』『誇りあるふる里づくり国づくり』『日本の進路－科学技術立国への道』がある。

かと言われることがあります。けれども、人を押し退けて、パフォーマンスをして、目立つことが政治家の正しい姿というものでもありません。人間同士の信頼関係を大切にし、お互いの個性を尊重する。だから、他人の言い分も十分に聞く耳を持つ。もちろん、自分の信念はぶれることなく、貫いていく。いわば和して動ぜずの精神を大切にする。安倍首相をはじめ、成蹊学園で学んだ政治家は皆そうした意識がしみついています。それは、政治家として大切な資質でもあると私は考えています。

環境問題の改善には 足元からの取り組みが大切

―現在、環境大臣の責務を担っていらっしゃるわけですが、今後の環境問題への取り組みについて、意気込みをお聞かせください。

若林　周知の通り、温暖化、エネルギー資源の枯渇、自然との共生など、環境問題は世界的な緊急課題になっています。日本の環境戦略に対する評価が高まっているという手応えを感じています。

―成蹊学園でも、環境問題への取り組みを強化し、ＩＳＯ１４００１の取得をめざしています。昨年八月には、成蹊大学学生環境委員会が発足し、教職員と学生が一体となった活動を展開しています。

若林　学生参加型で取り組むのは大賛成です。環境問題は地球規模の大きな問題ですが、それを改善するためには、まず足元から見直すことが重要です。今日の環境問題の多くは、経済や社会のあり方や、私たちの日常生活にまで密接に結びついているからです。家庭生活や通常の事業活動から生じる環境負荷を改善することが大切であり、その意味でも、若い学生たちが自分たちの問題として環境を考えるようになることは意義深いことですし、頼もしいですね。

―成蹊学園の今後の環境活動に対して、アドバイスをお願いします。

若林　あまりにも抽象的、観念的なスローガンを掲げたり、欲張ってたくさんの活動に手を広げるのは望ましくありません。小さなことでいいから、身近なところに具体的な目標を見つけて、地道な活動を展開してほしいと思います。たとえば、私が通っていた頃、成蹊学園では作業を重視していました。大久保捨蔵先生の指導のもと、畑で芋を栽培したり、花壇を整備したりしていました。そうした活動を復活させて、より緑豊かな学園にする活動でもいい。ゴミ拾い活動を活発化させるのでもいい。実現可能なところから、着実な活動をスタートさせてほしいですね。

―最後に、後輩たちに向けて、メッセージをお願いします。

若林　私は成蹊学園時代に、本当に素晴らしい友人たちに恵まれました。今でも交流が続いており、同窓生の集まりがあると、何はさておき参加するようにしています。成蹊学園ＯＢに共通するのは、温かみがあり、信頼できる人ばかりだということです。一緒にいると、とても安心感が得られます。そういう人格を育む校風をこれからも守ってほしいし、後輩の皆さんにも友人との絆を大切にし続けてほしいと思っています。

大学の近況

新入生と学長の語る会

本学では、二〇〇五年十一月から「学生満足度向上」「学生活力の大学運営への活用」をめざして、学長と成蹊生の交流プログラム「SEIKEI架け橋プロジェクト」を実施しています。その第三弾として、今年度から「学長と語る会」がスタートしました。

「学長と語る会」とは毎回テーマを設定し、テーマに沿った学生を学長室に招いて意見交換を行うもので、四月二十七日には、第一回として今年度入学した学部新入生を対象に「学長と語る会～ピカピカの新入生と一緒にランチ編～」が開催されました。

学長室で開催された本企画には、性別、学部、出身地もさまざまな計八名の学部新入生の参加がありました。サンドウィッチや唐揚げをつまみながら、和やかな雰囲気のなかで活発な意見交換が行われ、新入生からは「一人暮らしの学生が病気になったときにも食べられるような食事を提供してくれる食堂があれば」などの声が聞かれました。

会終了後、参加した新入生からは「一時間はあっという間に感じられ、もっともっと学長や他の学生と語りたかったです」「どんな小さな事にも真剣に耳を傾けてくださる姿勢に感動しました」といった声が寄せられました。

今後も卒業を控えた四年生や、社会活動支援奨学金受給者などを招いて随時開催される予定です。

情報図書館の利用状況について

成蹊大学情報図書館は、二〇〇六年九月二十一日（木）にオープン以来、学内外の方に幅広く利用されてきています。

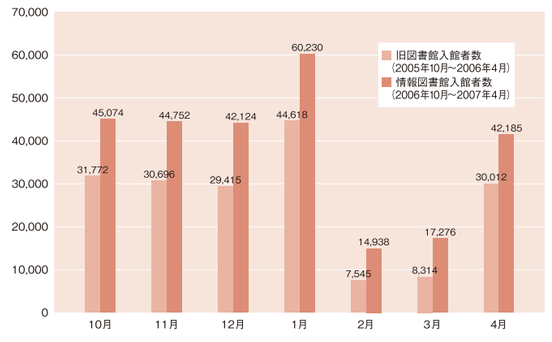
国内のほかの図書館と比べると、斬新な美しさゆえ、まるで異なる目的の建築物に思えるかもしれませんが、大学図書館の本質である学術情報を利用者に提供し、利用者がその情報を有効活用するという目的に沿った建物だということがわかってきます。最大の変化は、利用者の反応や利用状況です。下の表では、旧図書館との利用者数を比較していますが、利用者数が約一・四倍に増加しています。

情報図書館の目的の一つに、試験期間以外の時期にも図書館を活用して勉強してもらうことがあります。表にあるとおり、試験期間である一月が約三五％増加に対して、通常の授業である十月、十一月、十二月は、約四二％～四六％増加、とくに、大学の授業期間でない二月、三月には、約二倍に増加しており、授業のない時期にも学生が登校し情報図書館で勉強していることがわかります。

中央アトリウムと南北開架書架エリア、プラネット（グループ閲覧室）とクリスタル・キャレル（個室閲覧室）、リフレッシュエリア（室内の飲食と会話ができる場所）とサンクンコートヤード（室外の自由な空間）などの施設、また、各種情報機器なども、利用者の要求に応えるように想定され、その予想を上回るほどに利用されています。

アトリウムに浮かぶ五基のプラネットは、グループ学習に最適な空間として、日々グループ学習や討議が行われています。一方、開架書架エリアは静粛性を確保したスペースとして、それを取り囲むクリスタル・キャレルとともに、個人が学習・研究に打ち込む空間として、やはり成蹊のアカデミズムを支える存在になっており、試験期間に関係なく利用されています。試験期間には、アトリウムの座席やクリスタル・キャレルがほとんど埋まるくらい利用されており、特に百十台のPC付キャレルの利用率は目を見張るものがあります。また、情報図書館四階北フロアに設けられたメディアルームは、試験期間以外でもコンスタントに利用されており、情報図書館が種々の資料を提供している一例といえます。

●情報図書館における入館者数の増加



二〇〇七年度オープンキャンパス日程について

今年度のオープンキャンパスは、左記のとおり開催されます。当日は、キャンパス見学ツアーや体験講義、成蹊大学ガイダンスや就職ガイダンスなど、成蹊をより深く知るためのイベントが多数行われます。教職員や在学生と直接触れ合うチャンスも多く、成蹊の魅力と雰囲気を体験できる内容となっています。高校生をおもな対象としていますが、どなたでも参加いただけます。

- ●第一回　七月二十八日（土）・二十九日（日）
- ●第二回　九月十六日（日）・十七日（祝）
- ●第三回　十一月二十五日（日）※大学祭期間中

各回とも十時より受付開始で十六時半受付終了予定です。事前の申込みは不要です。時間内の入退場は自由です。なお、第三回は内容が異なります。

理工学部体験科学教室のお知らせ

理工学部の特徴ある三学科では、科学技術に関心を持ち、好奇心が旺盛な高校生を対象に、本学で行われている研究の一端を紹介し興味を持っていただくため、「一日体験科学教室」を次の日程で開催します。

最新の科学と技術に触れてみたい生徒の皆さんはぜひご参加ください。

- ●物質生命理工学科
  開催日　八月五日（日）
- ●情報科学科
  開催日　九月三十日（日）
- ●エレクトロメカニクス学科
  開催日　七月二十一日（土）

開催時間、場所等詳細については左記大学HPをご覧ください。

http://www.seikei.ac.jp/university/rikou/event/index.html

四大学運動競技大会

伝統ある年間行事の一つ、成蹊・武蔵・成城・学習院の四大学で競い合う四大学運動競技大会（四大戦）。今年度の第五十八回大会は十月十九日から二十一日まで、本学にて開催されます。

四大戦は、体育会各部による「正式種目」、誰でも好きな種目に参加できる「一般種目」、教職員による「教職員種目」から構成されています。種目ごとに点数をつけていき、正式種目と一般種目の合計得点で総合優勝を争います。

正式種目については、すでに競技が行われており、体育会スキー部が男女ともに優勝（男子は五年連続優勝）、体育会籠球部男子が優勝を飾るなど、六月十八日現在で、本学がトップに立っています。

二〇〇三年に本学で開催された第五十四回大会では、二十四年ぶりの総合優勝を果たしていますが、それ以降は学習院に続き二位に甘んじ続けています。

自校開催連続優勝をめざして、四大戦実行委員会の学生が中心となり大学一丸となって勝利を勝ち取るべく学内の士気を高めています。四年ぶりに優勝杯を学内に飾れるかどうか、今後の活躍にも期待したいと思います。

学内陸上競技大会

六月二日、晴天のもと、学内陸上競技大会が四〇〇m競技場において開催されました。

体育会・文化会団体やクラス・ゼミ単位での多数の参加がありました。障害物競走、綱引きなどの種目が行われるなど、陸上競技大会と運動会を兼ねた楽しい行事となり、大変な盛り上がりを見せました。

大会終了時には、学長より優勝団体にトロフィーなどが贈られ、学生たちの晴れ晴れとした表情を見ることができました。

麻疹罹患学生発生による全学休講

本学学生六名が麻疹に罹患したとの報告をうけ、五月十八日～二十七日の十日間、麻疹感染予防のため、全学部・全研究科を休講とし、学部生・院生の校内への立入りを禁止しました。

それに伴い、学内外を問わずすべての学生の課外活動が禁止され、学生の部活動に影響がでたほか、予定されていた学内陸上競技大会や公開講座、また試験期間や学年暦の日程が変更されるなどの影響がありました。

学位授与式　三月二十日（火）

教職員、保護者、後輩たちに見守られ、一八三四名が巣立ちました。

入学式　四月四日（水）

快晴のもと、成蹊大学の新しい主役として一九八四名が入学しました。

中学・高等学校の近況

入学式

四月六日、中学は十時から、高等学校は十三時半からそれぞれの入学式が厳かに執り行われました。中学校は国際学級の編入者も含めて二六七名、高等学校は編入者一名、再入学者一名を含む三百三十三名です。新入生を代表して、寺田眞弥さんと三浦舞さんが力強く入学の言葉を述べてくれました。

新入生歓迎会

四月十日、高等学校では新入生歓迎会が大教室で行われました。例年通り、生徒会が中心になって、生徒自身が企画したものです。

まず、ビデオで学校施設の紹介がありました。その中で身だしなみ指導を含めた寸劇を行い、実際にシャツ出しの男子生徒やスカートの短い女子生徒を教員が注意しているところなど、わかりやすく説明しました。その後、新担任の紹介が行われました。今年度は中学校から引き続き受け持つ担任も含め、若い活力もベテランも揃えた素晴らしいメンバーです。今回は生徒が各担任にインタビュー形式で質問を浴びせ、答えに困る場面もあり、一年生をわかせていました。

続いて、クラブ紹介が行われ、ビデオで自分たちの活動をアピールしたり、舞台ではりきって演技を見せ、日頃の活動を一年生に伝えていました。

大教室からH・R棟に移動し、教室でクラブの勧誘を行いましたが、数多くのクラブに一年生はどこのクラブにしようか戸惑っている様子でした。

四月十一日は中学校でも新入生歓迎会を実施しました。中学校では大教室において、生徒会長の挨拶から始まり、演劇部を中心に学校生活（ルールやマナー等）の寸劇を演じました。その後、いよいよ新学年の担任紹介です。自分のクラス以外の担任は知らない部分が多かったので、一年生にとっては興味津々、神妙に聞き入っていました。

クラブ紹介は第一体育館で高校生と同様に文化部・運動部各部が三分間のパフォーマンスを行いました。一年生の中には入学する前から入るクラブを決めていた生徒も、まったくの白紙でこの紹介で考えるという生徒もおり、配られたパンフレットを見ながら、自分が入る部活を真剣に考えているようでした。中学校では部活動の仮入部期間がありますので、しばらくの間、一年生はさまざまな部活動に参加して、自分に合う部活を検討することになります。

中学校遠足と高等学校体育大会

五月二日に中学校は遠足を実施しました。一、二年生は夏の学校の、三年生は修学旅行の予行演習的要素を持つ遠足です。前日からの雨が朝まで残り実施が危ぶまれましたが、一年生が予定を一部変更した以外は何とか実施することができました。一年生は高尾山登山と自然観察を通じて、自然に親しみ、仲間作りを行うことが目的でしたが、往復にケーブルカーを利用したため、十分に自然観察することはできませんでした。しかし、写真を撮ったり、食事も楽しそうに頬張って、新鮮な空気も十分といれたようでした。二年生は陣馬の山と自然を楽しむとともに、夏の学校に向けて集団登山に慣れておくことが目的です。中央本線の藤野駅に集合し、陣馬登山口から一の尾根を経由し、山頂で昼食をとりました。下山コースは明王峠、与瀬神社を回って相模湖駅で解散しましたが、生徒は達成感で満たされていました。三年生は修学旅行での班別行動を想定して実施し、上野公園内の東京国立博物館・国立科学博物館・国立西洋美術館を観覧しました。日本や世界の文化遺産に接し、また東京国立博物館では特別展のダ・ヴィンチ展を観覧することもでき、有意義な一日となったようです。

この日、高等学校では体育大会を実施しました。中学校の遠足同様前日の雨で四〇〇mグラウンドの状態が悪く、ここで行う予定のキックベースやドッジボールは場所を変更して行われました。その他、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ソフトボール、卓球などの競技がクラス対抗で行われました。一年生は入学後初めて、二年生にとってもクラス替え後初めての行事です。生徒はクラスごとに作ったシャツを着て、一丸となって各種目で熱戦を繰り広げ、大いに親睦を深めたことと思います。

中学校見学会・球技大会

中間試験が終わった翌日の五月三十一日には一、二年生の見学会が行われました。一年生は府中市郷土の森博物館においてプラネタリウムを観賞しました。約一時間、夏の星座や地球の自転を観賞し、星空の見方や天体観測の歴史を学びました。その後、博物館を自由見学し、お昼には解散しました。二年生は昨年の古典芸能「能・狂言」鑑賞に続き、現代演劇の一流舞台を楽しみました。浜松町にある劇団四季の自由劇場において「解ってたまるか？」を観劇しました。当日は貸し切りではなく、一般客や一部の保護者の方と一緒で、鑑賞のマナーの点で心配しましたが態度もよく観劇していました。これを機会に演劇に親しんでもらえればと思います。六月一日は一、二年生の球技大会が行われました。前日の雷雨で四〇〇mグラウンドの状態が悪く、一部、競技会場を変更して実施しました。しかし競技開始後に降雨で中断、あわや中止かと思われましたが、また競技会場を変更し再開しました。実行委員、先生方の判断やご苦労が自然と伝わってきました。一年生は中学生になって、二年生にとっても新しいクラスになって初めての球技大会でしたが仲間と力を合わせ、汗を流していました。

高等学校遠足

中間試験が終わった翌日の六月一日、高等学校の遠足が行われました。今回の遠足は場所によってはにわか雨もありましたが、まずまずの天気に恵まれました。この遠足では先に行われた体育大会同様、クラスの親睦を図ることを大きな目的としています。高等学校ではクラス毎に遠足委員が中心となり、立案、下見をし、出かけて行くというスタイルをとっています。いくつかのクラスは成蹊からバスに乗って目的地に向かいました。バスの中ではクイズを出し合ったり歌ったりと、楽しいひとときを過ごしていました。奥多摩や江ノ島、遠いところでは小田原まで出かけましたが、楽しんだ後に、ほとんどのクラスがバーベキューをして有意義な一日を過ごしました。

中学校修学旅行

例年通り五月二十八日から六月一日の四泊五日の日程で中学三年生が参加して修学旅行を実施しました。一日目は新幹線で京都に向かい、法隆寺・中宮寺、若草山に登り、宿舎のホテル大和路に入りました。

二日目はＡＢＣ組は薬師寺・浄瑠璃寺のコースでＤＥＦＧ組が浄瑠璃寺・薬師寺のコースを回り、それぞれ奈良公園内で昼食をとり、午後は公園を班別で散策しました。三日目は平等院から嵯峨野に向かい昼食をとって広隆寺・二条城・東寺を回り、宿舎である洛北に入りました。四日目は一日班別行動で嵯峨野（天竜寺）・洛西（金閣寺）・東山（銀閣寺）を散策しました。

最終日は三十三間堂・清水寺を回り昼食は知恩院でとり、午後の新幹線で帰京しました。この修学旅行では事前に国語や歴史、美術等の授業で学んだ史跡や建築物、仏像、美術品などを現地で触れ、日本の文化について、よりいっそうの理解を深めたことと思います。

進学状況

今年の成蹊大学への内部推薦者は卒業生三百二十三名のうち四三・三%の百四十名でした。これは昨年度の百二十九名、一昨年の百三名と比べて順調に伸びてきており、校長自ら生徒や保護者に向けて、成蹊大学の特徴や良さを説明し、一貫教育校ならではの高大協力体制が整いつつある結果であると思われます。また、今年は国公立大学ではお茶の水女子大学へ三名、東京工業大学へ二名（浪人一名を含む）等全部で二十三名（浪人十二名を含む）が合格しました。現役での大学進学者は内部推薦者も含めて二百四十一名、現役入学率は七四・六%で今後もさらなる現役進学率の向上をめざし、一層の努力を重ねる所存です。

運動部・文化部の活躍

中学校

●演劇部
東京私立中学演劇発表会（私学大会）に参加
開催日：6／17
場所：東京華学園講堂
演目：「沙良」（作：宮本浩司教諭）

●野球部
第9ブロック春季大会優勝
春季都大会出場

●硬式庭球部
東京都中学生テニス選手権大会に出場

〈個人の部〉
男子シングルス　ベスト8
有我雄法(関東大会出場決定)
男子シングルス　ベスト32
藤牧梓
女子シングルス　ベスト32
池田玲(6/10関東大会出場をかけて試合)
男子ダブルス　ベスト8
有我雄法・三浦大義(関東大会出場決定)
志村太和・石川誠太(関東大会出場決定)
女子ダブルス　ベスト16
山内亜子・池田玲(関東大会出場決定)
都甲真利・波爭野香

〈団体の部〉
男子団体　準優勝
（関東大会出場決定）
女子団体　第3位
（関東大会出場決定）

高等学校

●バドミントン部
東京都高等学校バドミントン新人Ⅱ部大会出場
〈個人〉
Bブロック　3位
内山圭子・森田有香(ともに現高2)

●天文気象部
3年生の飯嶋カンナ・加藤美彩が学会で一般発表

●硬式庭球部
東京都テニス選手権大会出場
〈団体／出場校数約270校〉
男子団体　3位
女子団体　5位
男子関東大会出場
〈個人〉
男子ダブルス　3位
増井康亮・中郡翔太郎(関東大会出場)

小学校の近況

小学校校舎新築工事・地鎮祭

五月晴れの五月二十一日、小学校校舎新築工事の地鎮祭が滞りなく執り行われました。

学園創立一〇〇周年記念事業の一環として、小学校では少人数教育に対応する校舎を中心にした施設再開発を進めてきましたが、いよいよその着工に向けての第一歩を踏み出すことができました。

成蹊学園の「個性を持った自立的な人間の創造」という教育理念のもと、小学校は「自立・連帯・創造」を二十一世紀の子ども像、教育目標として掲げています。

校舎新設においても、坂茂建築設計・株式会社三菱地所設計のご尽力で、この教育目標に呼応した「自立」する教室空間・「連帯」するワークスペース・図書館や多目的ホールなどの「創造」の場の構想を具体化することができました。

今後、戸田建設株式会社による校舎新築工事が無事故・無災害にて無事竣工することを、小学校一同心より祈念した地鎮祭でした。

完成予想図

平成十九年度　入学式

四月九日、入学式を行いました。今年の入学者は新一年生百十二名、国際学級新四年生十一名の計百二十三名でした。

新入生は三月末には満開となった桜並木で在校生の歓迎を受け、学園大講堂で六年生の「威風堂々」の演奏に迎えられて無事入学式を終了しました。今年度は、「威風堂々」の後半に「喜びの歌」を挿入するという新しい工夫を織り込んだ演奏で新入生を歓迎しました。

仮設校舎からのスタートとなった新入生ですが、入学後三ヶ月、すっかり成蹊小学校の生活に馴染んで元気に過ごしています。新一年生が卒業するのは二〇一二年度、学園創立一〇〇周年の年にあたります。施設再開発に伴い大きく変わっていく小学校ですが、一人ひとりが、健やかにそして個性豊かに成長していくことを楽しみにしています。

上級生たちに迎えられて

運動会

「走れ　跳べ　ポプラを吹いてく　風になれ」これが今年の運動会スローガンでした。予定されていた五月十九日は、あいにくの雨でグラウンドコンディションも整わず、二十日の日曜日に延期しての実施となりました。

晴天のポプラグランドで、子どもたちが演技に競技に力いっぱいがんばりました。今年はいずれの学年も自分たちの出場機会に全力をあげるばかりでなく、他学年の演技や競技を熱心に応援・声援する姿勢が目立っていました。そして、手狭な会場であるにも関わらず、来校された多くの保護者の方々が譲り合っての応援に協力していただけたことはありがたいことでした。

入学以来もっとも長い時間を学校で過ごすことになった一年生も、強い日差しの中、最後まで集中していた姿が印象的でした。そして、運動会の諸係を担当した五、六年生二百四十七名の子どもたちも、それぞれの部署の仕事を積極的に受け持って運動会を立派に支えてくれました。

なお、昨年同様、教員相互交換事業の一環として甲南小学校の三人の先生方が運動会前日から参加されました。前日準備・運動会当日と両日にわたって行事の流れを見学していただく有意義な機会となりました。

夏の学校

今年度から、四年生夏の学校の開設地を千葉県の白浜に移設しました。昨年まで利用していた神奈川県三浦の宿舎が改築工事のため使用できなくなったためです。このため、九月初旬に実施していた四年生夏の学校を、六月初旬の二年生夏の学校と同時期に開催することにしました。

四年生夏の学校は、六月三日から七日までの四泊五日で、千葉県南房総市のリゾートイン白浜を宿舎として実施しました。

磯での生物採集や観察・海水からの塩作りなどの海浜学習とともに、新しい開設地の特色を生かした班別体験学習やクラフトに挑戦しました。

二年生夏の学校は、六月五日から八日までの三泊四日で、学園箱根寮を宿舎として実施しました。箱根ならではの広々とした乗風台での散策や遊びのほか、今年は芦ノ湖一周のハイキングにもチャレンジしました。

今後は、一年生は七月十六日から箱根、三年生は七月二十日から箱根、五年生は七月十九日から裏磐梯、六年生は七月十八日から千葉県岩井へ、それぞれ夏の学校に出かけます。

昨年度は天候不順に悩まされた夏の学校でしたが、今年度は全学年が晴天の下で安全第一の夏の学校を実施できることを期待しています。

春の遠足

快晴の四月二十七日に実施した春の全校遠足は、小学校HPをもとに紹介します。

●一年生と六年生の遠足

一、六年生は、パートナー同士手をつなぎ、小学校から井の頭自然文化園まで歩きました。園に入って昼食場所を確保し記念撮影をした後は、グループごとに自由行動。モルモットを抱いたり動物を見て回ったりしながら交流を深めました。昼食後、六年生が用意したおやつを一年生と楽しみ、遊具広場で遊んだりして、最後に六年生は一年生を保護者に引き渡して無事解散しました。

●二年生の遠足

二年生は青梅丘陵・青梅鉄道公園です。青梅線宮ノ平駅を出発し、四十五分ほど山登りをして、青梅丘陵の屋根に上がり、そこからなだらかな下りを五十分ほど歩いて、青梅鉄道公園に到着しました。杉の林やコナラの森の中を気持ちよく歩くことができました。登りでも遅れることなく、元気に歩く姿は、なかなか立派でした。鉄道公園でのお弁当とおやつの時間となりました。

●三年生の遠足

三年生は高尾山です。昨秋はケーブルカーも使いましたが、今回は全て徒歩での登山です。一号路を四十分ほど登り見晴台で休憩、途中から四号路に入りました。しばらく進むと、つり橋が見えてきます。全長三〇mの頑丈なつり橋ですが、国語科で『つり橋わたれ』の学習をしていることもあり、みんな大喜びでした。山頂でのお弁当、自由時間を経て、尾根伝いの見晴らしのよい稲荷山コースを下山しました。

●四年生の遠足

四年生は陣馬山登山に挑戦しました。藤野駅を出発し登山口からすぐに始まる急な登り道は、かなりきついものでした。でも、そんなつらさを頬にあたる冷たい風が和らげてくれました。山間にくっきりと浮かぶ富士山を眺めることもできました。時には山頂に到着、なかなかの健脚ぶりを発揮しました。下りは明王峠を経て相模湖までの道のりでしたが、どこまでも続きそうな長い下り道に「爪先が痛い！」という子もいました。

●五年生の遠足

軍畑駅から高水山（七五九m）、岩茸石山（七九三m）、惣岳山（七五六m）の三山に登り、御嶽駅へと下りていきました。よい天気に恵まれ、また遠足が集中する日でもあったためか、常に他校の多くの子どもたちで賑わっていました。途中、景色がよい岩茸石山の山頂で昼食、集合写真も撮りました。標高差五〇〇m、急なアップダウンもあり、きつい行程でしたが、約一〇kmの道のりを全員粘り強く歩き通すことができました。途中休憩も含め約五時間の山行となりました。

北京大学附属小学校との交流

五月二十五日と二十六日の両日、北京大学附属小学校の男子児童（棒球代表団）十四名と尹超校長他四名の先生方が、成蹊小学校を訪問しました。

一昨年の清華大学附属小学校の訪問と同様に、特定非営利活動法人RBAインターナショナルのお世話と、中国人民対外友好協会並びに中国友好和平発展基金会の支援で実現したものです。

初日の交流会では、本校六年生が準備した太鼓の演奏や漢字クイズなどで和やかに歓迎。翌日は、小学校ポプラグラウンドで、両校野球部の親善試合を行いました。子どもたちは、身振り手振りで盛んにコミュニケーションを取り合うなど、積極的に交流を深めようとする姿が印象的でした。

今回の訪問に対し、安倍晋三内閣総理大臣から、両校の親善試合が日中友好の架け橋となることを期待する応援メッセージが届けられました。

両校野球部の親善試合にて記念撮影

2006年度 決算および事業報告について

学校法人成蹊学園の2006年度決算は、学園監事および公認会計士の監査を受け、5月30日の理事会・評議員会において、確定いたしました。2006年度の消費収支のバランスを表す消費収支計算書（第1表）についての概要は、次のとおりです。

納付金、手数料、補助金、資産運用収入などの本学園に帰属する「帰属収入」は合計で150億86百万円となりました。また、「基本金組入額」の合計は25億20百万円となり、うち第1号基本金は、2006年度に建設・購入などにより取得した、建物、建設仮勘定、機器備品、図書などの資産分として7億66百万円、第2号基本金は将来の校舎取得等を目的とした施設設備整備資金の積上げに係る計画組入分の16億円、第3号基本金は三菱留学生奨学金基金などの積上げ分の154百万円となっています。

帰属収入からこの基本金組入額を控除した額が、消費（支出）に充当できる「消費収入」で、その額は125億66百万円となりました。

一方、教職員の人件費、教育研究・管理経費（減価償却額を含む）、借入金利息などの「消費支出」の合計は、136億32百万円となり、この結果、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、10億66百万円の消費支出超過となりました。

消費収支計算書の主な増加・減少要因などは次のとおりです。

- 納付金は帰属収入に占める最大の収入要因であり、その割合は約73%となりました。
- 補助金の増加は、補助金申請対象の教員数が増えたことや私立学校施設整備費補助金の申請が採択されたことなどによります。
- 教育研究経費は委託費や光熱水費の節減等により減少しました。
- 当年度の収支差額は34億91百万円を見込んでおりましたが、帰属収入が3億66百万円増加したこと、消費支出が3億35百万円減少したこと、および基本金組入額が17億24百万円減少したことから、10億66百万円の消費支出超過にとどまりました。

第2表の資金収支計算書は、教育研究など学園全体の諸活動に伴う資金の動きが全て網羅されています。総額は298億93百万円となり、次年度繰越支払資金は97億95百万円となりました。

2006年度に実施した主な事業は次の通りです。

大学院整備・学部改編

2006年5月に行われた新司法試験において、本学法科大学院3月修了生中25名が受験し、そのうち11名が合格しました。その合格率44%は、全国の法科大学院の平均とほぼ同じであり、社会人学生が半数を超える中で、修了率と合格率の高い法科大学院として一定の評価を得るところとなっています。2007年3月には法務専攻2年履修生21名中19名、同3年履修生35名中28名が修了しました。また、丸の内に開設された成蹊サテライトオフィスには、法科大学院の授業教室と双方向で結び合う情報ネットワークシステムを設置し、社会人学生が授業を継続して受講できるようにしました。

創立100周年記念事業

- 情報図書館の建築工事が2006年6月に竣工し、その後、大学の後期授業の開始日に合わせて9月から利用に供されるところとなりました。情報機器の利用と文献の利用とを組み合わせた新しい学習環境のほか、利用しやすく居住性の高い館内環境や優れた立地条件によって、情報図書館は、学生のキャンパスライフに活気を与える施設となりました。
- 情報図書館の利用開始に引き続き、旧大学図書館棟を新大学1号館・2号館に全面改修し、2007年4月から使用に供しています。新大学1号館には、キャリア支援センター、国際教育センターなどの事務室のほか、大学院生の研究室などが配置されました。新大学2号館は、強化ガラス壁面を多用した透明感の高いゼミナール教室37室からなるゼミ棟として整備されました。
- 2006年7月に着工した中学校ホームルーム棟は、2007年8月竣工をめざして建築工事が順調に進んでいます。新築校舎と接続する中高中央館の改修工事も併せて実施される予定です。
- 2007年4月着工予定の小学校新校舎の実施設計図面の取りまとめが完了し、施工会社の選定や監督官庁への申請手続きなど、建築工事の準備が進みました。工事期間中の代替施設となるトンネル山校舎を大学共用教室から、小学校専用教室に改修しました。

研究活動の高度化

ハイテク・リサーチ・センター事業

文部科学省が推進する私立大学学術研究高度化推進事業の研究助成金を受けてスタートした、大学院工学研究科のハイテク・リサーチ・センター事業は、3つの研究プロジェクトを5ヵ年計画で進める3年目の事業展開において、着実な研究活動が進められ、文部科学省に研究成果中間報告書を提出しました。

現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム

文部科学省が行う大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）を受けて実施した法学部の現代的教育ニーズ取り組み支援プログラム（事業名称：進化する教養教育と国際化新人材の育成）は、平成18（2006）年度から3年間を実施期間として開始されました。中国語発音練習に使用できる教材ソフトの開発作業が、本学理工学部助手、及び医療用計測器メーカーの支援を得て進んでいます。

学習・教育支援体制の整備

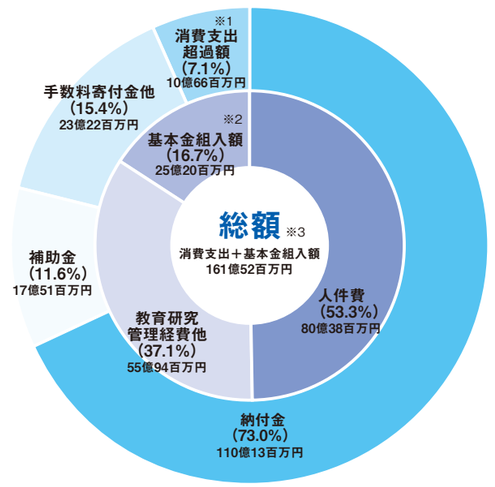
- 大学7・8号館教育研究用クライアントサーバーシステムを更新しました。
- 大学3号館2階マルチメディアルームに教材編集室を新設しました。
- 大学の4学部の授業科目のシラバスが、ウェブによるシラバスデータベースシステムで編集・閲覧できるようになりました。
- 学生生活ガイドブックを6年ぶりに全面改訂しました。
- 中学校入学試験科目の内容変更などに関する特別広報や受験者の動向調査を実施しました。
- バリアフリー区域の拡張のため大学3号館の1階に自動ドアを増設しました。

2006年度消費収支計算書を図で表すと、次のとおりです。

※1 2006年度は消費支出超過だったため、各比率の合計が100%を超えます。

※2 基本金組入額は、決算書では帰属収入から控除することになっていますが、図表では支出額に加えて表示しています。

※3 総額は、消費支出と基本金組入額を加えた額となっていますが、各科目の構成比率は帰属収入合計（150億86百万円）を100%として表示しています。



第1表 【消費収支計算書】

2006（平成18）年4月1日から2007（平成19）年3月31日 まで （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
消費収入の部			
学生生徒等納付金	11,046	11,013	△ 33
手数料	596	649	53
寄付金	474	470	△ 4
補助金	1,519	1,751	232
資産運用収入	352	417	65
事業収入	251	257	6
雑収入	482	529	47
帰属収入合計	14,720	15,086	366
基本金組入額合計	△ 4,244	△ 2,520	1,724
消費収入の部合計	10,476	12,566	2,090
消費支出の部			
人件費	8,071	8,038	△ 33
（教職員等人件費）	(7,684)	(7,594)	(△ 90)
（退職給与引当金繰入額）	(387)	(444)	(57)
教育研究経費	4,606	4,437	△ 169
（うち減価償却額）	(1,689)	(1,795)	(106)
管理経費	1,034	1,011	△ 23
（うち減価償却額）	(174)	(172)	(△ 2)
借入金等利息	56	57	1
資産処分差額	55	75	20
徴収不能引当金繰入額	14	6	△ 8
徴収不能額	0	8	8
〔予備費〕	(99) 131		△ 131
消費支出の部合計	13,967	13,632	△ 335
当年度消費収支差額	△ 3,491	△ 1,066	
前年度繰越消費収支差額	△ 674	△ 674	
次年度繰越消費収支差額	△ 4,165	△ 1,740	

第2表 【資金収支計算書】

2006（平成18）年4月1日から2007（平成19）年3月31日まで （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
収入の部			
学生生徒等納付金収入	11,046	11,013	△ 33
手数料収入	596	649	53
寄付金収入	474	461	△ 13
補助金収入	1,519	1,751	232
資産運用収入	352	417	65
資産売却収入	799	899	100
事業収入	251	257	6
雑収入	482	529	47
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	2,026	2,420	394
その他の収入	7,897	6,128	△ 1,769
資金収入調整勘定	△ 2,932	△ 3,148	△ 216
前年度繰越支払資金	8,517	8,517	
収入の部合計	31,027	29,893	△ 1,134
支出の部			
人件費支出	8,445	8,361	△ 84
（教職員等人件費支出）	(7,684)	(7,594)	(△ 90)
（退職金支出）	(761)	(767)	(6)
教育研究経費	2,917	2,641	△ 276
管理経費支出	860	839	△ 21
借入金等利息支出	56	57	1
借入金等返済支出	172	173	1
施設関係支出	4,398	3,105	△ 1,293
設備関係支出	679	469	△ 210
資産運用支出	5,201	4,824	△ 377
その他の支出	669	802	133
〔予備費〕	(99) 251		△ 251
資金支出調整勘定	△ 477	△ 1,173	△ 696
次年度繰越支払資金	7,856	9,795	1,939
支出の部合計	31,027	29,893	△ 1,134

第3表 【貸借対照表】

2007（平成19）年3月31日 （単位：百万円）

科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	76,370	76,171	199
有形固定資産	43,561	42,020	1,541
土地	6,237	6,111	126
建物・構築物	30,388	26,359	4,029
教育研究用･その他の機器備品	1,604	1,645	△ 41
図書	4,666	4,507	159
その他	3	5	△ 2
建設仮勘定	663	3,393	△ 2,730
その他の固定資産	32,809	34,151	△ 1,342
有価証券	6,857	7,356	△ 499
特定資産	25,590	26,466	△ 876
その他	362	329	33
流動資産	10,989	9,832	1,157
現金預金	9,795	8,517	1,278
有価証券	499	799	△ 300
その他	695	516	179
資産の部合計	87,359	86,003	1,356

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部			
固定負債	6,170	6,704	△ 534
長期借入金	863	1,036	△ 173
長期未払金	42	80	△ 38
退職給与引当金	5,265	5,588	△ 323
流動負債	3,837	3,401	436
前受金	2,420	2,473	△ 53
その他	1,417	928	489
負債の部合計	10,007	10,105	△ 98
基本金の部			
第１号基本金	66,574	63,765	2,809
第２号基本金	3,400	3,843	△ 443
第３号基本金	8,034	7,880	154
第４号基本金	1,084	1,084	0
基本金の部合計	79,092	76,572	2,520
消費収支差額の部			
次年度繰越消費収支差額	△ 1,740	△ 674	△ 1,066
消費収支差額の部合計	△ 1,740	△ 674	△ 1,066

科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	87,359	86,003	1,356

学園 TOPICS

成蹊から
お伝えしたいこと

中学ホームルーム棟が新しくなります

新高校ホームルーム棟完成（二〇〇九年一月使用開始予定）まで高校生が一時新中学ホームルーム棟を使用し、中学生は二〇〇八年冬より新校舎を使用する予定です。

仙台・名古屋二会場で地域懇談会を開催

該当地域にお住まいの方へは、別途ご案内状を差し上げます。ぜひお越しください。

〈対象者〉在学生保証人・卒業生

成蹊地域懇談会

仙台会場

日時：2007年9月1日（土）
14:00〜16:30
会場：仙台サンプラザホテル
ローズの間
対象地域：青森県・秋田県
岩手県・山形県
宮城県・福島県

名古屋会場

日時：2007年10月28日（日）
16:00〜18:45
会場：キャッスルプラザホテル
３階　孔雀の間(北)(南)
対象地域：静岡県・岐阜県
愛知県・三重県

お問い合わせ先
成蹊学園広報課
電話：0422-37-3517

成蹊学園「建学の日（三月二十三日）」に向けて「エッセイ」を募集します

成蹊学園では三月二十三日の「建学の日」を記念する新しい行事として、中村先春二先生に関することや成蹊教育に関する内容を「私の成蹊」というタイトルのエッセイとして募集し、優秀作品を選考し、表彰・公表することといたしました。小学生には、「中村春二先生へのお手紙」を募集します。皆様奮って、ご応募ください。

●募集対象　成蹊中学・高等学校生徒、成蹊大学生・大学院生、教職員、卒業生、桃友会員

●募集期間　十月三十一日（水）まで

●宛先　soumu@jim.seikei.ac.jp
〒180-8633
武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
成蹊学園総務部総務課

※郵便消印有効、メールでの応募も可能
詳細はHPをご確認ください。
http://www.seikei.ac.jp/gakuen/soumu/essay/index.html

〈お詫びと訂正〉

成蹊学園広報65号12頁「大学の近況」に掲載いたしました、2007年3月卒業生の主な就職企業について、一部誤りがありました。工学部卒業生の就職企業のうち、大学院の数が含まれておりませんでした。お詫びと訂正申し上げます。

正しくは下記の表となります。

工学部（大学院含む）	人数（人）
東芝	5
清水建設	3
大日本印刷	3
三菱電機	3
日本電気	3
富士通	3
沖電気工業	3
スズキ	3
凸版印刷	2
共同印刷	2
グラクソ・スミスクライン	2
ノバルティスファーマ	2
石川島播磨重工業	2
キヤノンファインテック	2
アンリツ	2
スタンレー電気	2
山武	2
横河電機	2
カヤバ工業	2
本田技研工業	1
日産自動車	1
三菱自動車工業	1
日野自動車	1
いすゞ自動車	1
マツダ	1
アイシン精機	1
小糸製作所	1
ヤマハ発動機	1
ヤマハ	1
明治製菓	1
サッポロビール	1
マルハ	1
日立製作所	1
トプコン	1
リコー	1

工学部（大学院含む）	人数（人）
協和エクシオ	1
三菱マテリアル	1
三菱鉛筆	1
ＩＮＡＸ	1
トヨタ紡織	1
みずほ銀行	5
三菱東京ＵＦＪ銀行	1
中央三井信託銀行	1
日本生命保険	1
野村證券	1
ユニカシノルタビジネスソリューションズ	1
ポーラ化粧品本舗	1
中央香料	1
JR 東日本	4
トヨタテクニカルディベロップメント	3
三井住友海上システムズ	3
第一生命情報システム	3
損保ジャパン・システムソリューション	3
東京電力	2
東京海上日動システムズ	2
住商情報システム	2
三菱スペース・ソフトウエア	2
みずほ情報総研	2
菱友システムズ	2
電通テック	1
三菱総研ＤＣＳ	1
野村総合研究所	1
帝国データバンク	1
NTT データ	1
NTT 東日本	1
三菱電機ビルテクノサービス	1
東京都庁	1
警視庁	1
神奈川県警察本部	1
成蹊学園	1

全学部統一入試(E方式)はじまる！

成蹊大学では2008年度入試より「全学部統一入試（E方式）」を導入します。これは経済・法・文・理工の全学部で、統一の試験問題により選抜する本学独自の2教科試験です。

Point 1 基礎学力を測る2教科試験
経済学部・法学部・文学部は「国語」と「英語」
理工学部は「数学」と「英語」

Point 2 1回の試験で複数学部に出願可能
※文系3学部に限ります
※同一学部内での学科併願はできません

Point 3 他の一般入試との併願可能

Point 4 試験開始は午後から
遠方からの日帰り受験も可能です

Point 5 試験会場は本学と池袋の2会場
※2会場のうちいずれかになります

大学

● E 方式：2教科型

学部	学科	募集人員	出願期間	試験日	合格発表日
経済学部	経済経営学科	30	1月5日（土）～1月23日（水）《消印有効》	2月3日（日）	2月8日（金）
法学部	法律学科	20			
	政治学科	10			
文学部	英米文学科	6			
	日本文学科	6			
	国際文化学科	6			
	現代社会学科	6			
理工学部	物質生命理工学科	10			
	情報科学科	10			
	エレクトロメカニクス学科	10			

● A 方式：3教科型

学部	学科		募集人員	出願期間	試験日	合格発表日
経済学部	経済経営学科	地歴公民型	140	1月5日（土）～1月31日（木）《消印有効》ただし2月1日（金）は本学で窓口受付を行います。	2月13日（水）	2月20日（水）
		数学型	50			
法学部	法律学科		100		2月14日（木）	2月21日（木）
	政治学科		50			
文学部	英米文学科		60			
	日本文学科		43		2月12日（火）	2月19日（火）
	国際文化学科		52			
	現代社会学科		48			
理工学部	物質生命理工学科		40		2月11日（月）	2月18日（月）
	情報科学科		40			
	エレクトロメカニクス学科		40			

● C 方式：3教科型／S 方式：5科目型（大学入試センター試験利用型）

学部	学科	募集人員 C方式	募集人員 S方式	出願期間	試験日	合格発表日
経済学部	経済経営学科	30	5	1月5日(土)～1月18日(金)《消印有効》	1月19日（土） 1月20日（日） ［大学入試センター試験日］ 本学での二次試験は実施しません。	2月8日（金）
法学部	法律学科	36	4			
	政治学科	24	2			
文学部	英米文学科	8	2			
	日本文学科	8	2			
	国際文化学科	7	2			
	現代社会学科	8	2			
理工学部	物質生命理工学科	22	3			
	情報科学科	25	3			
	エレクトロメカニクス学科	25	3			

● AO マルデス入学試験

学部	学科	募集人員 一般	募集人員 特別	一次審査	一次審査合格発表	二次審査	二次審査合格発表
経済学部	経済経営学科	25	帰国生特別受験 社会人特別受験 外国人特別受験 各学科若干名の募集となります。	10月27日（土）	11月2日（金）	11月10日（土）	11月17日（土）
法学部	法律学科	6					
	政治学科	4					
文学部	英米文学科	6					
	日本文学科	2					
	国際文化学科	5					
	現代社会学科	6		審査			合格発表日
理工学部	物質生命理工学科	10		10月28日（日）			11月17日（土）
	情報科学科	10					
	エレクトロメカニクス学科	10					

高等学校・中学校・小学校

募集年次			募集人員	出願期間	試験日	合格発表日
高等学校	第1学年		男女約80名	1月25日(金)～ 1月29日(火)	2月10日(日)	2月11日(月)
	海外帰国生		第1学年男女約15名	2月 2日(土)～ 2月 6日(水)	2月14日(木)	2月15日(金)
	第2学年転編入		男女若干名	3月17日(月)～ 3月19日(水)	3月14日(金)	3月15日(金)
中学校	第1学年		第1回:男子約55名 女子約40名／第2回:男子約20名 女子約15名	1月21日(月)～ 1月24日(木) 窓口受付（第2回のみ）2月3日（日）10：00～15：00	第1回：2月1日（金）／第2回：2月4日（月）	第1回：2月2日（土）／第2回：2月5日（火）
	国際学級	9月期入学	第1学年男女若干名	6月11日(月)～ 6月19日(火)	7月 3日(火)	7月 4日(水)
		4月期入学	第1学年男女若干名 ※状況により2次募集を実施	12月10日(月)～12月15日(土)	1月 9日(水)	1月11日(金)
	中2帰国生編入		第2学年男女若干名	12月10日(月)～12月15日(土)	1月 9日(水)	1月11日(金)
小学校	第1学年		112名（男子56名／女子56名）	10月 1日(月)～10月 3日(水)	男子：11月1日（木）午前2日(金)～4日(日)の1日 女子：11月1日（木）午後2日(金)～4日(日)の1日 保護者面談(男女とも)11月2日(金)～4日(日)の1日	11月 5日(月)
	国際学級	9月期入学	若干名	6月 4日(月)～ 8月22日(水)	9月 1日(土)	9月 3日(月)
	第4学年	4月期入学	16名	1月10日(木)～ 2月26日(火)	3月 1日(土)	3月 3日(月)

二〇〇八年度 入学試験日程

成蹊 教育のいま

成蹊の“学び”をレポート

No.01

ナノテクノロジー研究

佐々木 成朗 理工学部教授

常識にとらわれない発想で、大胆かつ謙虚に挑戦する

成蹊大学理工学部物質生命理工学科 教授。理学博士。
1997年 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了。2001年JSTさきがけ専任研究者、2002年９月成蹊大学工学部専任講師などを経て、2006年4月より現職。文科省若手科学者賞（2005）、成蹊会学術賞（2005）、UBSスペシャルアワード(2006)、日本表面科学会論文賞(2006)、トライボロジー学会論文賞(2007) など受賞多数。2007 年には「International Scientist of the Year 2007」に選出される。ビールとあんこが好物。

日常生活と密接に関わっているナノテクノロジー

本学で「ナノテクノロジー研究室」を主宰して、早いもので五年目に突入しました。あっという間に過ぎた時間の中で進めた教育と研究についての雑感を書き留めてみます。

ナノテクノロジーというと、「小さくて難しそう」というイメージを持たれる方が多いと思いますが、実は我々の日常生活と密接に関わっています。医療・バイオ、材料、IT、環境・エネルギーといった、政府が重点を置いている産業分野の基盤技術としてナノテクノロジーが用いられているのです。この現状を学生の皆さんに伝えるのが私の教育者としての仕事です。まず一年次前期のフレッシュマンゼミという入門的講義で、抗癌剤や化粧品の合成や燃料電池の開発にナノテクノロジーが使われているよ、という話をしてナノテクを身近に感じてもらいます。次に三年次前期のナノテクノロジーIで、物理、化学、生物というこだわりから離れて、ナノテクノロジーの幅広さ、奥深さを網羅的に伝えて、分野横断的なセンスを楽しみながら身につけてもらっています。

省エネに摩擦の軽減は欠かせない

私はナノテクノロジーの中でもナノ力学という特殊な分野、とくに「摩擦を極限までゼロに近づける事」を目的とした先端研究を理論的に進めています。摩擦の研究が必要とされる第一の理由は省エネルギー問題です。摩擦で失われるエネルギーは国民総生産（GNP）の約数パーセント、十数兆円に上るといわれており、摩擦の軽減は燃料の節約につながるため経済問題に大きく寄与します。第二の理由はナノテクノロジーの要請です。ナノメートルサイズでは摩擦の効果が大きくなるので、作製した微小機械を動かしても摩擦で止まってしまう可能性が大きいのです。このように摩擦研究は産業上不可避の要請といえます。

床に転がるビー玉から生まれた大胆な発想

では、どうしたら摩擦を減らせるのでしょうか？床にビー玉をばらまいて、その上で板を動かすと滑りが良くなる事は誰もが知っています。私はこの現象をナノの世界に持ち込んでみました。すなわちナノの板（鉛筆の芯と同じ黒鉛という物質）でナノのビー玉（炭素原子六十個が球体につながったフラーレンという物質）をサンドイッチ状に挟んで滑らせると超低摩擦が実現されるのでは？というシナリオを考えたのです（図1）。ありがたいことにこの着想は成功し、ナノのビー玉が滑ったり、振動したり、転がったりすることで、摩擦が大幅に減少したのです。現在、時計などの精密機器メーカー、効率的なエンジンの動きを志向する自動車メーカー、スキーワックスメーカーなど複数のメーカーが、この材料システムを潤滑油やメッキの添加剤に実用化する方向で開発が進んでいます。

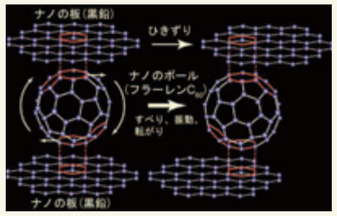


図1：超低摩擦研究の最初のアイディア。ナノの板（黒鉛）でナノのビー玉（フラーレンC60）を挟んで滑らせるシナリオ。

実をいうと、このシステムを発表した当初、学会では「低摩擦になるはずがない」と否定的な反応でした。でも私は面白かったから続けて、その結果実現に持ち込みました。先端研究で大事なのは、何よりも先ず対象をどれだけ面白がれるか？夢中になれるか？ということではないでしょうか。常識に囚われない発想（遊び心）で未解決の問題に大胆かつ謙虚に挑戦すること、といえるかもしれません。そこからオリジナリティが生まれます。ちょっと大変だけど、その方が人生は面白くなるし、夢中になってひねり出した結果が社会の役に立ったり、学問そのものの発展に寄与するかもしれない。学生の皆さんには、時間を忘れて夢中になれる適職を見つけて人生を充実させてもらいたいと期待しています。

そんな私の思いに共鳴してくれたいわば同志の学生諸君が研究室に集まってきてくれるのは嬉しい限りです。私の研究者としての姿勢が、そのまま学生の皆さんの人生に対して少しでも良きメッセージになるような教育者でありたい、と思っています。

ナノテクノロジー研究室1～5期生と一緒に